

# 迫る米中逆転

## —そのとき日本をどう守るか

元陸将補、岐阜女子大学客員教授

矢野の義昭

- \*世界の趨勢は自主防衛体制
- \*公表額の2〜3倍の中国の軍事費
- \*オバマ政権は関与からヘッジへ
- \*核兵器関連予算も削減対象
- \*中ロは対テロのパートナー
- \*中国沿海部に効く接近拒否戦略
- \*ステルス機、無人機も無効？
- \*文明の利器はすべて戦力である
- \*中国の軍事力投資は民学官一体
- \*日本は危ういところに来ている



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

夏休み前最後の講演会ということでいろいろ考えたのですが、ここ2〜3年、安全保障の問題、防衛の問題はあまり取り上げてこなかったのが、矢野さんにおいでいただきまして初めての講師のときはいつも心配があるのですね。しかし今回はその点は大丈夫でしょう。私がお話をやっているある勉強会に来ていただいでお話を伺い、その内容がとても良かったので今日は安心してご紹介いたします。

日本の安全保障はなんとなく大丈夫だと日本人の多くは思っていますけれども、実は安全保障というのとはそんな簡単なものではないし、カネも出さず、意識も持たずになんとなく成り立つはずはないのですね。今日は米中の関係を中

心に、日本の安全保障はこれから5年から10年、本当に大事なところに来るだろうというお話です。今きちんと取り組まないといけないぞという警鐘を鳴らされると思います。そういう意味で怖い話ですから、じっくりお聞きいただきたい。それでは矢野さん、よろしくお願いいたします。（拍手）

矢野 紹介にあずかりました矢野義昭でございます。私は1950年、昭和25年の生まれでして、ちょうど学生運動が盛んな頃、大学にいます。その被害をもろに受けた一人です。多くの方が大学紛争というと半分懐かしい、ほろ苦い思いを持っておられるのではないかと思います。ちょうど三島事件やあさま山荘事件とかあります、私も大学にいた頃、このままで日